北海道医報
ISSN 0913-0217　2009.7.1. 第1090号
発行人　北海道医師会長　長瀬　清
発行所　北海道医師会
〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目
TEL (011) 231-1432　FAX (011) 221-5070
URL http://www.hokkaido.med.or.jp/
E-mail info@office.hokkaido.med.or.jp　頒価 1部 250円

風季節

『沈黙』の舞台で

情報広報部副部長　橋本洋一

曇り空の中で海面だけがやさしくきらきらと輝いている。文学館の窓からみえる海の風景に目を奪われながら、静かな時間がゆっくりと過ぎ去っていく。こころが癒されるこの静かな空間は平成12年5月に竣工した遠藤周作文学館の展示室である。やっと来ることができた感激で胸がいっぱいになったが、ぎっしり詰まった原稿をみていると、狐狸庵先生のユーモアとは裏腹に、几帳面な一面が伺われる。しかし、書斎コーナーに張られた書斎では「トモギ」という村名になっているが）を順子夫人が希望され、実現するに至ったらしい。僻地資金を活用して、外海町立遠藤周作文学館が完成したが、編入合併に伴い、長崎市遠藤周作文学館へ名称変更したとのことである。

大学入学した頃に、装丁に特徴のある遠藤周作文庫が講談社から出版されたのを契機に遠藤文学にのめり込んでいった、ユーモア小説や狐狸庵ものを読み進めている中で『沈黙』に出合った衝撃は強く心に残った。日常生活を送っている私達は、時にこのような尊敬できる人がどうして重い疾病にかかり、生死を彷徨わなければならないのかとか、この天使のような幼子が天涯孤独な身にどうしてなるのかといった理不尽な状況に激しい憤りを感じ、この世に神などいるものかと非特定の神の存在を否定することがしばしばある。この『神の沈黙』は、人類が地球上に出現して以来の永遠のテーマでもある。カントは『神は全能である。よって存在するという能力も有している。したがって、神は存在する』と神の存在を証明し、山本七平氏は『神は人間の召使いではない』といった趣旨のことを書かれ、御都合主義の信仰を戒めているが、神がおられるならば、沈黙を破ってその存在を明示してほしいとの願いを抱くことは誰でも一生の中で一度はあるだろう。

神の存在を疑うのは当たり前と言われた遠藤氏は、12歳の時にお母上から勧められるままにカソリック教会で洗礼を受け、キリスト教を自分の体に合わないダブダブの洋服にたとえ、小説を書くことは、自分の体にあった洋服にしていく過程と位置づけておられた。私のような不心得ものでも、キリスト教について、宗教について、信仰について考えることができたのは、氏のそういった文学の姿勢と密接な関係があると思われる。『沈黙』の主人公はキチジローだ」との氏の言葉は、常に弱い者に視点をあててこられた氏の生き方そのものであり、『心あたたかな医療』運動もその一環として展開された。

医療崩壊、医療安全が叫ばれている中で、霧がかかった外海の海を眺めながら、遠藤氏が提唱された『心あたたかな医療』運動をもう一度見つめ直してみようと思った。

での遠藤氏の写真は机の上に置くところがないほど乱雑にさまざまなものが置かれ、氏の几帳面さがこれぽっちも見いだせない。純文学作品を書かれる一方で、ユーモア小説、狐狸庵もの、そして歴史小説と幅広い文筆活動をされた遠藤氏ならではの書斎風景といえるのかもしれない。

遠藤周作文学館の開館場所については、複数の場所が候補にのぼったらしいが、遠藤氏の『沈黙』の舞台にもなった外海町（『沈黙』